

平成24年度(23年度事業対象) 教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる

基本目標 1

夢と希望を育み、豊かな人間性の基礎づくり

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標		取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
1 子育て支援の環境づくり	1 健康・安全で情緒の安定した生活安全整備	感染症対策マニュアルの作成と、保健的な対応について訓練、研修等の実施	・感染症対策マニュアルの作成 ・研修会、訓練等の実施状況	・日常の健康観察チェック表、各保育所での対応について整備する。 ・保健的な対応について研修を実施する。	・保育所感染症対策マニュアルを参考に各保育所において乳幼児への適切な判断に基づく保健的な対応ができるよう、取り組まれている。	B+	B+	・0～3歳児の情緒の安定は大事であり、生活面の取組について充実させてほしい。 ・子どもの安全確保の観点から施設整備についても対応してほしい。
	2 個々の子どもの発達段階に即した養護・教育	保育内容研修会の実施	乳児保育、3歳未満児保育にかかわる研修	・学年別研修会 子どもの発達の特性及び発達過程を理解し、発達及び生活の連続性に配慮した保育の研究 ・給食担当者会 離乳食、アレルギー食への対応と保護者との連携	・学年別研修会は今年度、担当保育所で各1回の公開保育をおこなう。 ・実技研修として、音楽リズム研修を実施。幼稚園教諭の参加も含め42名参加。	B+	B+	0～3歳児の給食は意味が大きいので、その取組もより充実させてほしい。
	3 保護者と子育て家庭への支援	・保育所利用家庭への情報提供 ・地域の子育て家庭の親子が集える場作り	・保育所だより等、通信の発行 ・まちの子育て広場、所庭開放の実施	・子どもの様子、子育てを支援する情報、食育についてなど、定期的に発行する。 ・懇談会、アンケート等により活用度を把握する。 ・子育てひろばの日を決めて地域の親子と交流する。(各保育所) (年間6回)	・各保育所ごとに所だより、給食だより、クラスだより、保健だよりなど定期的あるいは随時発行している。 ・通信の活用度については把握できていない。(アンケート未実施) ・子育てひろばの開催は各保育所により未実施、不定期、年間3回、毎月1回などばらつきがある。	C	B-	・園所だより等により、子育てや家庭支援など保護者への訴えをすることで連携も図れる。現在の園所だよりも密なものになっており、継続・充実してほしい。 ・子育てひろば事業の実施内容のばらつきについて検討してほしい。

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標		取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
2 創意に満ち、信頼される園(所)経営の推進	1	発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育の充実 教育課程の編制と実施	創意ある教育課程の編制 教育課程に基づく教育保育活動の実施	地域や家庭の実態を考慮し、幼児の特性に合わせ発達を見通した、調和のとれた適切な教育課程を編制 幼児理解を深め、一人一人のよさが発揮できる指導の工夫 発達に必要な適切な環境の構成と教育保育内容の充実	地域や家庭の実態に合わせた、各園の取り組み、幼児の発達や育ちの課題を踏まえた教育活動がなされている。 過小規模の園においては、近隣園との交流保育を実施	B+	B+	小規模園が多くなっており、引き続き近隣園との交流を続けてほしい。
	2	評価システムや情報提供の推進 宍粟市学校園評価の実施 園報配布	自己評価の実施 関係者評価の実施 園所の教育方針・取り組み等の情報提供	学期毎の自己評価を実施 評価の実施と結果の公表・改善 教育保育活動、運営状況についての理解と協力 園所経営への積極的な参加	幼稚園において自己評価、関係者評価を実施。次年度の経営方針及び重点目標に反映 保育所においては本年度自己評価シートを検討・作成し、24年度より実施予定。	B-	B-	・職員自身が自己研鑽をつみ、子どもたちにより良い教育・保育をしてほしい。 ・園評価について評価のみに終わらず、次年度の課題として活かし、解消に努めてほしい。
	3	学校教育との連携推進と円滑な接続 合同研修・研究会の実施 園児と児童・生徒との交流	合同研究会参加 合同行事の実施 交流保育授業の実施	教育研究大会参加 研究発表の実施 運動会・オープンスクール・学習発表会等の実施 絵本の読み聞かせ等ふれあい交流の実施	教育・保育について異校種間の共通理解の機会 園児と児童・生徒とのふれあいと交流	B-	B-	幼稚園・小学校の連携について状況に差がある。小学校入学など保護者の不安を取り除き、安心できる育ちを作るため、今後も努力してほしい。

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標		取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
3 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実	1 健康教育の充実	保幼小中連携食育カリキュラムに基づいた食育の取組 基本的生活習慣の定着	食育活動の充実 早寝・早起き・朝ご飯の啓発活動	クッキング活動の充実 (野菜の自園栽培、保護者のクッキングボランティア) 家庭の状況を把握した一人一人に応じた指導と 家庭と連携した望ましい生活習慣の推進	偏食の改善への取り組み 家庭への幼児期の食の重要性の啓発 望ましい生活習慣の推進 (健康カード等)	B+	B+	保護者も含め基本的生活習慣の定着に向け、引き続き努力してほしい。
	2 自立と協同の態度を培う取組の推進	友だちと試行錯誤して遊ぶ体験活動の充実	「協同する経験」の組織的・計画的な指導 言葉で表現する意欲や態度の育成	教育課程に基く、各園所による組織的・計画的な環境の設定 一人一人の幼児の発達や集団での育ちを見通した、幼児理解に基づく保育の展開	幼児同士が共通の目的をもち、協同する体験の充実 日々の自発的な遊びとしての学びの充実	B+	B+	保育者の資質向上が子どもたちの成長にも大きく関わるものであり、引き続き努力してほしい。
	3 人権教育の推進	多様な体験を通じた「人とかかわる力」の育成	様々な人とのふれあい活動の充実 人権研修の実施	未就園児との交流(なかよし広場) 地域ボランティアとの交流 幼稚園ウィーク等地域の方々との交流 各中学校区 人権教育研修会	人への信頼感と規範意識の育成	B+	B+	
	4 多様なニーズに応じた教育活動	特別支援教育の充実	教育連携連絡会の実施 就学指導委員会の実施 特別支援保育・教育会議の実施	小・中学校、福祉機関と連携し支援体制の構築 個別の指導計画・支援計画の作成 加配教諭による、一人一人の幼児の状況に応じた支援・指導	家庭と連携し、個別の指導計画・支援計画に基づいた、一人一人のニーズに合わせた支援を実施	B+	B+	・市特別支援教育は他の自治体と比べて充実しているので継続してほしい。 ・小学校から中学校へ滑らかな進学についても、引き続き努力してほしい。

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標		取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
4 家庭や地域社会・関係機関との連携の推進	1 家庭・地域社会との連携を深め、地域の人材等の積極的な活用	保護者・地域の方による、読み聞かせボランティアの推進	ボランティアとの連携強化 絵本に親しむ機会の充実	ボランティアによる読み聞かせ機会の充実 家庭での読み聞かせの機会を推進 絵本に親しみ、就学後の読書活動の基礎づくり	絵本を楽しむ機会の充実 家庭への絵本の貸し出しの推進 絵本を通じた親子のふれあいタイムの推進	B-	B+	テレビ・ゲーム等に囲まれている世代であり、読書活動の機会を与えることは大切である。現在も十分に取り組んでいるが、継続・拡充してほしい。
	2 安心・安全の園(所)づくり	安全・防災教育の推進	交通安全教室の実施 避難訓練の実施 関係機関との連携	年間計画に基づく、うさちゃんクラブの実施 教育課程に基づく火災・地震・不審者に対応する訓練の実施 消防署・地域の関係機関と連携した防災教室の実施	自分の命を守る為の能力や、交通ルールを守る態度の育成	B+	B+	マンネリ化した年間計画になっていないか見直しも必要である。
5 0～5歳児までの一貫した教育・保育の新たな仕組みづくり	1 「しそく子ども指針(仮称)」の策定	「しそく子ども指針(仮称)」の策定状況	「しそく子ども指針(仮称)」の有無	無:未策定		C	C	・保護者・住民への丁寧な説明と、保護者の不安を取り除き、理解を求められるよう努力してほしい。
	2 幼保一元化に向けた地区別懇談会の実施	保護者、地域との懇談会の実施	懇談会の開催状況	各中学校区(行政懇談会)で実施 100% (参考) ・行政懇談会以外での実施 山崎東中学校区 2回 三土中学校区 1回 一宮北中学校区 3回 波賀中学校区 17回 千種中学校区 28回		B-	B-	
		地区別協議会の設置	協議会の設置状況	未設置			C	

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる
「B-」:あまり満足できない 「C」:満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
1 生涯を通じた学びの機会 の提供と情報発信	1 社会教育振興計画の策定	時代の変化に対応できる新たな社会教育を全市的に推進するための振興計画を策定する。	基本理念・目標・施策・施策推進の柱・主要事業の体系化 ・幅広い分野と各地域から選定の社会教育振興計画策定委員により、現状・課題を整理し、体系化した社会教育振興計画の作成を行う。	「つなぐ」をキーワードに生涯学習社会において、学びをとおして人の心をつなぎ、地域をつなぎ、世代を超えて知恵をつないでいく役割りを社会教育で担っているという基本理念とし、体系化した振興計画を策定することができた。	A	A	それぞれの地域性を活かした振興計画となっている。
	2 若年期から高齢期まで生涯を通じて質の高い学習に取り組める機会の提供	生涯を通じ、それぞれのライフステージに合った質の高い学習機会の提供の実践	市民大学、高齢者大学、青い鳥・くすの木学級の開催数及び参加者 ○年齢をを問わず各自が講座を選択し自主的自発的に参加ができる市民大学の開設。 ○高齢者の生きがいや社会参加を促進する高齢者大学の開設。 ○聴覚・視覚等に障がいのある方への学習の機会と社会参加を促進する青い鳥学級、くすの木学級の開設	・各講座に参加され、交流や自己研鑽に努めることができた。 ・高齢者大学は、高齢者の増加に反し参加者がやや微減している。個々の活動やボランティアなど生活様式の変化が要因と考えられる。クラブ活動等においては参加者が成果を発表する場があるなど参加意欲を高めることができています。	B+	B+	・市民大学について、若者の受講が少ないことは課題である。 ・高齢者大学参加者が微減となっているが、高齢者の生きがいづくりの場として、引き続き工夫してほしい。
	3 社会的課題に対応するための学習機会の提供と情報発信	市役所各部署で実施されている講座や研修会を一元的に市民の学習機会として提供するための市民大学の開設	市民大学の開設 ○市役所内各部署で実施されている講座や研修会を市民大学パスポート事業として組み入れていただき、一元化した市民大学の開設。	・市民大学に組み入れていただける部署も増えてきたが、募集時に日程や内容が確定しにくく組み入れにくい部署もあり、組み入れられる部署が限定されてきている。社会的課題の学習は要求課題の学習に比較し自主的な参加者が少ない傾向であるので、市民大学の活用を広めたい。	B-	B+	市民大学は定着してきた。さらなる工夫と人材育成に努力してほしい。
2 学びの成果を地域に還元し、有効に生かすための仕組みづくり	1 市民大学や生涯学習講座等での学習成果や個人やグループ活動の成果を地域に還元し生かす。	・学習履歴ノートや生涯学習パスポート(生涯学習単位取得制度)の導入による市民大学の開設。 ・生涯学習講座の充実。 ・生涯学習センター登録団体制度による学びの成果を、地域の中で、学習リーダーや学習支援グループとしての社会還元。	・生涯学習パスポート制度導入による市民大学の開設。 ・生涯学習講座の開設。 ・生涯学習センター登録団体の活動。	・市民大学パスポート事業において、大学卒業単位到達者が出るなどシステムの定着化が徐々に浸透している。 ・生涯学習センター登録団体数は横ばいであるが、生涯学習センターの事業運営のボランティアとして参加など、地域への還元を図っている。 ・高齢化による講座への参加者の固定化や社会還元へつないでいく仕組みの手法に工夫が必要である。	B+	B+	市民大学は定着してきた。さらなる工夫と人材育成に努力してほしい。

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる
「B-」:あまり満足できない 「C」:満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
3 「人権文化に満ちた社会」の創造	1 市民一人一人に人権尊重の理念に対する理解が深まるよう、人権学習の機会の提供と生涯学習推進組織の充実と学習活動への支援	人権尊重の意識を高める人権研修、学習を市、地域、自治会などで実践する。	地域での人権学習の実施や実践発表など実施回数 ○生涯学習推進協議会活動事業 11生推協に補助金を交付し、基本目標に基づく活動を実施。学習組織を編成し、リーダー研修、講演会を実施 142回 ○人権週間、月間に開催する講演会など 8月の差別をなくそう市民運動月間、12月の人権週間に講演会を実施 各自治会等では、講演会、実践発表会を実施 12回	講演会等については、受講者の考え方や思いもあり、講演内容の評価は分かれている。 事業実施については、継続性を持たせることに効果があるとのアンケート意見も多くあり、今後も引き続き取り組む必要がある。 参加者が固定化している状況がある。 若年層の参加や学習意欲の向上に取り組む必要がある。	B-	B+	・地区生涯学習推進協議会間で交流されている地区もある。レクリエーション事業の実施など、全市への交流拡大の工夫や仕組みなどを検討してほしい。 ・講演会の内容や時期・時間など、参加しやすい工夫について検討してほしい。
	2 身近にある人権課題について自発的な学習意欲の向上をめざすための学習プログラムの開発と提供	学習ビデオ・啓発資料・学習資料の充実	地域や団体グループで自発的な学習を進めて頂くためのビデオや資料等の提供 ○人権学習会への学習教材・資料の提供。 学習会用ビデオと学習シートの提供 ○西播磨地区各市町人権担当職員による「セイ」等啓発資料・学習の作成 ○人権作文集の作成(全戸配布)	・人権に関わる学習は、大切なことと理解されながらも、なかなか参加者が増えていかない状況であり、人権について学ぶことで、生活が豊かになり、幸せにつながっていく身近な学習であるような、学習手法等の必要である。	B-	B-	・参加しやすい工夫を検討してほしい。
	3 人材の活用や育成による指導者層の充実を図り、地域全体で人権文化の創造をめざした取組の推進	地域学習リーダーの育成や人権アドバイザーの資質の向上	・学習リーダー研修会・実践発表会実施回数 ○人権アドバイザー研修会の実施(※人権推進課と連携) ○各生涯学習推進協議会委員・自治会学習リーダー等を対象にした研修会の実施 ○実践発表会の実施	・地域学習リーダー研修を自治会や生涯学習推進協議会の協力により継続して実施できた。 ・人権アドバイザー派遣制度と連携し、地域学習からの要請による派遣の実績もできた。 地域全体で人権文化の創造をめざすためには、学習リーダーの育成を継続して実施していく必要がある。	B+	B+	
4 豊かな自然と風土に育まれた「宍粟文化」の土壌づくり	1 地域の特色を生かした地域固有の文化の発展と新たな宍粟文化の創造と長い歴史と風土に育まれた先人の知恵、伝統文化の継承・保存	市内に伝わる伝統芸能等を次代に継承するための、市内保存団体への活動支援。 地域の歴史や文化に関する学習や展示・講座の充実。	・市内に伝わる伝統芸能保存団体への活動支援回数 ・歴史・文化に関する講座や展示の実施回数 ○獅子舞やチャンチャコ踊りなど、市内に伝わる伝統芸能団体への支援。 ○歴史講座や市内文化財関係史料等の展示回数。	・獅子舞やチャンチャコ踊りの保存団体に継続し存続していけるように支援を行っているが、少子化や高齢化が進み後継者の育成が困難な状況がでてきているところがある。 ・郷土の歴史や文化に関する講座や展示を行い、歴史や文化に触れていただく機会をつくり実施した。 市民に興味を持って参加していただける講座や展示内容への工夫を行う必要がある。	B-	B+	伝統芸能などの紹介について、市広報、しそチャンネルなどを積極的に活用して周知に努め、伝統芸能の継続に努めてほしい。

《社会教育》

基本目標 1

地域全体で参画し、学びを還元できる環境・人づくり

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる
「B-」:あまり満足できない 「C」:満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
5 地域全体で子どもたちを見守り育む活動支援	1 学校・家庭・地域のつながりを強め、地域全体で次世代を担う子どもを育む仕組みづくり	放課後子ども教室の充実。 各中学校区育成委員会活動の充実。	・放課後子ども教室実施回数 ・育成委員活動回数。 ・市内全小学校区11ヶ所で開設している放課後子ども教室回数 ・市内8中学校区で学校・PTA・地域住民の連携のもと組織された育成委員会の巡回指導や研修等の実施回数	・地域で減少する子どもの安全で安心して遊べる居場所の確保を全小学校区11ヶ所で地域のボランティア等の協力を得て実施している。また中学校区育成委員会の活動も定着し、研修会等を実施する中で活動の充実を図っている。 子ども数の減少が多い校区では、公民館等へ出向くなど自治会に協力をしていただくなど工夫した形で実施している。	B+	B+	・放課後子ども教室の参加児童はいきいき楽しそうに過ごしており、地域住民とのつながり・交流の場でもあるので、地域ボランティアも活用しながら拡大に努めてほしい。 ・地域の高齢者との交流で、子どもたちが普段しない経験をすることができる場でもあるので、継続拡充してほしい。
6 地域づくりを支える社会教育関係団体の育成・支援	1 行政と協働して共通の地域課題解決に当たるため、社会教育関係団体等の特徴を生かした地域貢献活動の支援	社会教育事業推進を支えていただいている社会教育関係団体の自主的な活動への育成支援。 団体と共催による事業効率と成果の向上を図る。	・社会教育関係団体数 ・社会教育関係団体と共催・連携事業数。 ・宍粟市PTA・宍粟市子ども会・宍粟市文化協会や各地区生涯学習推進協議会等社会教育関係団体の支援団体数 ・元気をもらおう講座等リーダー講習会、文化展等文化イベントの共催回数	・社会教育事業推進を支える社会教育団体において、目的に応じて多くの事業を実施して頂いている。社会教育課の事業との共催や連携事業として実施する事業も計画し、行政と協働して効果が上がっている。	B+	B+	マンネリ化の傾向もあるが、文化展との共同開催なども検討してほしい。
7 地域づくりの拠点となる社会教育施設の充実	1 住民にとって身近な「地域の知の拠点」として、だれもが知りたい情報を得たり自己学習の援助を行うことのできる図書館・歴史資料館の充実	図書館の蔵書充実、連携と子どもの読書活動の推進	図書館、図書室の蔵書数 ○図書館ネットワークの開設 平成23年度より図書館、3図書室をネットワークで接続。施設間での図書移動が円滑に実施可能となった。 H20、22の交付金事業で図書を購入蔵書 H22 111, 200冊 ⇒ H23 114, 033冊 ○読書コーディネーターの設置による学校図書館の連携。教師、読書ボランティアとの研修 H23より図書コーディネーターを配置。学校図書の整備、支所との連携、先生・ボランティアの研修会等を実施し、より児童らが本に親しみやすい環境づくりや支援を実施した。	ホームページの図書検索システムと施設のオンライン化、メール便による施設間の書籍移動により利用者の利便性が非常に高まっている。市民の読書への関心を高め支援するため、マンパワーを活用も実施につなげている。	B-	B-	・図書館の閲覧室や駐車場の狭いなど施設面の問題はあ。他に歴史資料館のPRや展示物の種類や数の拡大など検討してほしい。 ・図書館利用者数の増加につながる工夫について検討してほしい。
	2 地域における学習の拠点、人づくり・まちづくりの拠点として機能を果たすための生涯学習センターの充実	市民の学習がしやすい施設としての維持管理、修繕。	施設の開館日数 施設の改修修繕	○グループや登録団体等が活動しやすい開館の運営 ○施設の設備、施設維持の為の修理	・グループや登録団体が活動しやすいように活動部屋の調整や夜や土日の開館を行っている。 ・各施設とも老朽化してきているが、可能なところから修繕を行い、利用しやすい施設としての管理運営に努めている。	B-	B-

《社会教育》

基本目標 1

地域全体で参画し、学びを還元できる環境・人づくり

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる
「B-」:あまり満足できない 「C」:満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標		取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
8 市民の 学びを 支える 人材育成	1 市民の学習課題を的確に把握し、学習事業へと具現化させるための企画・立案能力や、さまざまな立場の個人や組織を調整する能力の向上。学習者が直面する学習課題に対して、解決に向けた手立てを示したり、適切な学習相談に応じることのできる人材の育成	各種講座等実施後のアンケートの実施、県等の機関が実施する研修会等へ積極的に参加し資質の向上を図る。	研修会等への参加回数	○県や関係機関が実施する社会教育研修等へ参加しスキルアップを図る	・嬉野台生涯教育センター等で実施される学習手法の研修会や企画立案研修等に参加し資質の向上に努めた。 少人数の職場では参加がしにくい状況があるので、協力して出れる体制をつくる必要がある。	B-	B-	人材育成は必須要件であり、努力してほしい。
	2 社会教育主事や図書館司書・学芸員等の専門職員をはじめ、社会教育の推進に関わる人材の育成に向けた研修会への積極的な参加	・国や県等が開催する社会教育関係職員研修会、専門研修等へ積極的な参加 ・市で開催の講演会、研修会への参加	・市内外への研修会等への参加回数、派遣人数	・市内で開催する研修会講演会への参加 ・県や関係機関が実施する研修会等への参加 ・社会教育主事講習の受講者派遣	・県社会教育関係職員研修会、図書館司書研修会へ積極的に参加し資質の向上に努めた。また市内で実施する講演会や研修会には社会教育職員として率先して参加をしました。 少人数の職場では参加がしにくい状況があるので、協力して出れる体制をつくる必要がある。	B+	B+	

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる
「B-」:あまり満足できない 「C」:満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
1 生涯スポーツ活動の推進とスポーツを通じた交流の促進	1	・スポーツ推進委員の資質の向上と地域に密着したスポーツ活動の普及。 ・子どもから高齢者まで、身近に市民ぐるみで明るく元気にスポーツに親しみ、身近に感じることができる地域スポーツ活動の充実とスポーツの習慣化を促進	・スポーツ推進委員研修会回数 ・地域密着型スポーツ活動の実施回数 ・宍粟市スポーツ推進委員として委嘱している42名の資質の向上と技能の習得を目的とした研修会の実施や県や西播磨地区での研修会等への参加。 ・子どもから高齢者まで身近に市民ぐるみで楽しめる、地域でのスポーツ活動や事業の実施回数。	・各地域住民のスポーツ推進と健康増進を図るために、ペタンクやグラウンドゴルフや歩こう大会など子どもから高齢者までスポーツに親しめる地域スポーツの普及活動を行い、地域住民の健康増進とスポーツの習慣化の促進に努めた。 地域の中でペタンクやグラウンドゴルフやウォーキングをされる方が増えている。	B+	B+	スポーツクラブ21を通じ地域交流事業もあるが、市内のスポーツイベントはまだ少ない状況であり、検討してほしい。
	2	スポーツイベントによる市内外との交流促進	イベントへの参加者数 ○泥んこdeがんバレー・宍粟市さつきマラソン大会・宍粟市ロードレース大会参加者数	・交流イベントとして実施している泥んこde頑バレーは、特色あるイベントとして定着し、県外からの参加者も多く、交流の輪が広がり成果が出ているが、会場や駐車場に限界があり、いずれの大会も人数制限を行う状況となっている。	A	B+	
2 競技スポーツの振興	1	体育協会の活動支援による競技スポーツ指導者の育成と競技力の向上	体育協会加盟団体への支援 ○体育協会加盟団体数	各種競技団体において自主的・自発的な大会運営が行われている。	B+	B+	
	2	「スポーツ大会出場奨励金」の交付	交付申請者数、交付金額 ○ スポーツ大会奨励金交付件数 全国大会、世界大会に出場したスポーツ選手、団体に奨励金を交付。 1団体と29人に対し 53万円交付	奨励金を申請、受領された方が市内で実施するイベント参加や講演会などで経験や活動を講演いただくなど市民の生涯学習への還元につなげられた。	B+	B+	市広報・しそチャンネルなどで各種大会に参加し活躍された方を広く市民に披露することを検討してほしい。
	3	競技スポーツ大会の開催支援 宍粟市さつきマラソンやロードレース大会等、市民スポーツ大会の開催	競技スポーツ大会への支援数 実行委員会組織への参画者数と参加者数 ・体育協会加盟団体による大会開催数 ・実行委員会組織による大会の開催と参加者数	・競技団体が開催される窓口業務等を行い、大会開催の支援を行った。 ・実行委員会組織による大会を開催し、多くのボランティアの協力もとで、たくさんの参加者の中で大会が開催できた。	A	B+	

「A」:満足できる 「B+」:概ね満足できる
 「B-」:あまり満足できない 「C」:満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標		取組の成果等	自己評価	委員評価	委員の意見・感想
3 宍粟の自然環境を活かしたスポーツ活動の推進および研究	1 自然環境を活かしたスポーツ活動の推進。	・音水湖カヌー拠点施設を活用したカヌー教室の開催と指導者の育成 ・50名山等、自然環境を活かした登山やハイキング・スキー教室の実施	・自然を活かしたスポーツ教室等の実施回数	・音水湖を活用したカヌー教室の開催。 ・冬の季節を利用したスキー教室の開催 ・宍粟の自然風景を散策する歩こう大会の開催	自然を活用したカヌー教室・スキー教室・歩こう大会を開催した。他の活用方法についても今後検討が必要である。	B+	B+	市独自のカヌー事業などの充実・発展とともに、音水湖などの市内の観光資源を利用した、例えば高齢者向けのハイキングなど、他の事業の実施を検討してほしい。
4 適正な施設管理	1 ・指定管理施設の適正な運営 ・スポーツ施設の適正な管理運営	・スポニックパーク一宮と一宮ウッディパークキャンプ場指定管理の継続 ・各種競技大会や生涯スポーツのできるスポーツ施設の計画性のある施設整備 ・施設利用者の安全確保及び利便性の向上	・指定管理施設利用者数 ・スポーツ施設利用者数 ・修繕整備	・指定管理施設の適正な管理運営 利用者数、効率の良い管理料による運営と経営努力 ・スポーツ施設の利便性の向上と計画的な修繕利用者数、計画的な修繕	・各施設とも老朽化に伴う改修箇所が増加している。予算の制限もあり全て改修できない状況であるが、急ぐところから随時改修を行っている。 ・施設の利用者数については、少子化等の影響もあり横ばい又は減少傾向である。	B-	B-	施設によっては老朽化が進み修繕が必要なものも見受けられるので、十分に状況を把握し、適切な施設管理に努めてほしい。

しそうの子ども生き活きプラン後期基本計画策定に係る「前期プラン」検証結果

《学校教育》

基本目標 1

宍粟市に生き、宍粟を活かす人づくり

評価(4段階): A B+ B- C

主要 施策	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・ 感想	
1 宍粟の 良さを 知り、 宍粟を 愛する 子ども の育成	1 地域教育資源 を活用した系統 的体験活動の 実施	市内教育資源を最大限に 活用した系統的な体験活 動の実施状況	系統的体験活動名 及び実施率(H23) ①自然学校(対象:小学校5年生) ・宍粟市内実施:全校H22年度より(100%) ・カヌー体験、宍粟の山への登山(100%) ②ふるさと宍粟探検隊(対象:小学校4年生) ・社会科副読本を活用した「宍粟の自然、歴史、産業学習」 (100%) ・宿泊体験を通じた仲間づくり(宿泊:7校) ③環境体験事業(対象:小学校3年生) 年3回以上(100%) ・校区の自然環境を活用した自然体験 例、学校田、伊沢川、国見山 ④トライやる・ウィーク推進事業(対象:中学校2年生)(100%) ・地元資源を活用した職業体験 ⑤共通 ・地域人材の活用及び交流 (100%)	A A	①確かな学力状況調査より 「自分の住んでいる地域が好きである」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 88.0%:89.5% 小6 89.5%:85.5% 中2 87.4%:79.2% H23(宍粟市:全国) 小4 90.4%:88.9% 小6 89.8%:84.4% 中2 85.7%:78.0% ②成人式 出席者の割合 H24 82.3%(405名/492名) H23 81.7%(445名/545名)	B+	・「学校が好き」 小中とも85%、 「地域行事参 加」小90%、中 77%はすばら しい ・自然学校、ふ るさと宍粟探検 隊の見直し	
	2 宍粟の教育を 象徴する特徴 的な活動の創 設(教育シンボ ルの創設)	宍粟市内の教育と言え ばこれと誰もが認識するよ うな特徴的活動の創設状況	市独自の教育施策 の数及び対象校 ①確かな学力状況調査(H22年度より) 全小中学校 ②出会いふれあい赤ちゃん教室の実施(H23年度より) 3中学校 ③子ども議会(H23年度より) 全中学校 ④読書活動推進(H22年度) 全保幼小中学校園所 ⑤小中一貫教育の推進(H20年度より) 全中学校区	B- B-	確かな学力状況調査より 「困っている人の手助けをしている」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 77%:67.9% 小6 66.3%:63.7% 中2 72.8%:54.5% H22(宍粟市:全国) 小4 72.7%:64.6% 小6 76.3%:55.9% 中2 71%:52.9%			
		特徴的な取組に関する調 査研究の実施状況	調査研究の実施の 有無	未実施	C			
	3 仲間・学校・家 庭・郷土への愛 を育む道徳教 育の推進	仲間・学校・家庭・郷土を 題材にして、教育活動全 体を通じた道徳教育の推 進状況	①道徳の授業実施 時間数及び全体計 画作成状況(H23) ②満足度(H23)	①小学校道徳平均授業時数 35.6時間(年間35時間の確保) ②中学校道徳平均授業時数 35.3時間(年間35時間の確保) ③小中全体計画の作成(100%) ④道徳推進状況調査満足度 ・小学校 満足、概ね満足(100%) ・中学校 満足、概ね満足(100%)	A B+			確かな学力状況調査より 「学校が好き」な児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 80.3%:80.7% 小6 84%:51.2% 中2 85.4%:79% H22(宍粟市:全国) 小4 77.9%:78.8% 小6 84.8%:78% 中2 85%:75.5%
			道徳教育への地域の人材 参加状況	③地域人材活用状 況(H23)	①小学校 12校(63.2%) ②中学校 4校(50.0%)			B+

主要施策	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標		自己評価		取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
2 宍粟で”生きる”キャリア教育の推進	1 キャリア教育推進体制の確立	地域の特性、産業構造等を踏まえたキャリア教育の推進状況	①推進事業名及び実施率(H23) ②満足度(H23)	①環境体験事業(対象:小学校3年生) 100% ・校区の自然環境を活用した自然体験 例:学校田、伊沢川、国見山 ②トライやる・ウィーク(対象:中学2年生) 100%実施 ③トライやる・ウィークでの農林水産体験生徒の割合 9.6% ④トライやる・ウィーク満足度調査 ・働くことの大切さ厳しさを感じた(95.6%) ・人とのふれあいが楽しかった(82.3%)	B-	B-		B-	
		カリキュラムや教材の開発状況	事業名及び実施率(H24)	①「トライやる」アクション(再度同じ場所で職場体験)の実施(100%)	B-	B-			
	2 市の諸施策と連動した職場体験の実施	市の諸施策と連動した職場体験の推進状況	連動した事業数	未実施	C				
		既存事業(トライやる・ウィーク推進事業)の見直し・改善状況	①見直し改善事業名(H24) ②満足度アンケート(H23)	①「トライやる」アクションの実施(100%) ②トライやる・ウィークのアンケート ・働くことの大切さ厳しさを感じた(95.6%) ・人とのふれあいが楽しかった(82.3%) ・自信が持てた(49.8%)	B-	B+			
3 宍粟につながる進路指導の推進	1 市内、近隣の事業所など、現場で必要とされる人材の把握	必要とされる人材についてのニーズの把握状況	ニーズ把握調査の実施の有無	未実施	C	C	市内高校充足率(H24 94.5% H23 88.5%) H24 伊和 78.8%(63/80) 千種 92.5%(37/40) 山崎 99.3%(278/280) H23 伊和 73.8%(59/80) 千種 80%(32/40) 山崎 93.9%(263/280)	B-	・必要とされる人材についてニーズを把握することで、それに合った人材が育ち(集まり)、地域の活性化、過疎対策につながる。 ・千種の中高一貫教育は良いが、高校、大学卒業後に宍粟につながる進路指導ができにくい。
	2 高等学校、他の教育機関との連携体制の確立	高校との連携体制の確立状況	①千種中・千種高校の取組状況(H24) ②中高連携千種高校への進学状況	①千種中・千種高校の取組 ・中高合同職員会議の実施(隔月1回) ・中高連携授業の実施(年間 6回程度) ・中高合同行事実施(体育祭、文化祭) ②千種中から千種高校への進学率 H23 59.1% H22 68.6% H21 69.2%	B+	B+			
	3 卒業生徒の進路状況の把握	卒業生の進路把握状況	調査時期及び回数(H23)	①中学校卒業時(100%) ②市内3校における進路状況(就職・進学)年1回	B-	B-			

主要 施策	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
4 市の特 性を踏 まえた 学校規 模の適 正化	1 学校規模適 正化推進計 画の策定及 び推進状 況	推進計画の推進状況	①推進計画の有無 ②推進状況 ①作成済み H23～24年度 千種中学校区 H25年度 波賀中学校区 H26年度以降 一宮北中学校区 H27年度以降 山崎西・三土中学校区(菅野小、土万小) 山崎東中校区(伊水小、都多小) 一宮南中学校区 山崎南中学校区 ②H23年度 千種南と千種東が千種南小へ H24年度 千種南と千種北が千種小へ	B+		B-	
		保護者、地域への説明会の実施	地域協議会の開催状況	各中学校区実施 100%			
	2 学校規模の適 正化に向けた 地区別懇談会 の実施	地区別懇談会の実施	地域協議会の開催状況 全中学校区で実施 100%	B-		B-	
5 義務教 育9年 間の連 続した 教育体 制の構 築	1 小中一貫教育 の導入に向け た取組の推進	小学校高学年における教科担任制(兵庫型教科担任制)実施状況	教科担任制実施校数 ①小学校 11校 5, 6年の国語、算数、理科、社会の中で教科担任制を実施する。	A	長期欠席児童生徒数の推移 H23 1%(38名/3744名中) H22 1.1%(43名/3853名) 不登校児童生徒数の推移 H23 0.5%(17名/3744名) H22 0.4%(16名/3853名)	B+	
		小中連携研究指定状況	小中連携研究指定数 全中学校で指定(平成20年度より順次指定) 100%	B+			
		制度面、教育内容面の調査研究	調査研究の推進状況 ①制度面 未実施 ②教育内容面 ・「確かな学力」育成プランでの推進	B-			
	2 教職員の校種 間人事交流の 促進に向けた 検討	小学校高学年における教科担任制(兵庫型教科担任制)推進状況	教科担任制実施校数 ①小学校 11校 5, 6年の国語、算数、理科、社会の中で教科担任制を実施する。	A		B+	
小中人事交流状況及び交流授業実施状況		①小中人事交流人数 ②交流授業状況 ①H23 1名(管外の小学校→市内中学校へ) ②中学校区内で小中間出前授業の実施1回以上実施 75%	B+	C			
	3 幼児教育及び 高等学校等と の連携の確立 に向けた検討	幼小連携状況 中高連携状況	①幼小の連携状況 100% 全中学校区で実施済み ・読書読み聞かせ交流 ・教師の異校種間出前授業交流 ・連携食育指導の推進 ②千種中、千種高校 実施 ・合同体育祭、文化祭 合同職員会議、交流授業	B+		B+	

主要 施策	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想	
6 多様な ニーズ に応え る学習 指導の 確立	1 学力向上に向 けた指導方法 の評価・改善	学習タイム実施状況	学習タイム実施校の割合 ①学習タイム実施校 小中 100%	A	確かな学力状況調査より 「学校に行く日、学校の授業以外にする学習時間」 H24(宍粟市:全国) 小4 30分未満(30.1%:26.7%) 30分程度(21.9%: 25.6%) 1時間程度(28.2%:26.9%) 1時間半以上 (19.2%:19.8%) 小6 30分未満(15.1%:17.9%) 30分程度 (19.6%:20.1%) 1時間程度(33.7%:31.5%) 1時間半程度 (20.8%:16.1%) 2時間以上(10.5%:13.6%) 中2 30分未満(10.8%:24.8%) 30分程度 (17.9%:18.2%) 1時間程度(34.2%:26%) 1時間半程度 (22.3%:15%) 2時間以上(14.4%:15.1%) H22(宍粟市:全国) 小4 30分未満(30.1%:25.2%) 30分程度 (27.1%:26.7%) 1時間程度(22.6%:28%) 1時間半以上 (19.3%:19.5%) 小6 30分未満(15.9%:17.2%) 30分程度 (23.5%:19.1%) 1時間程度(30.6%:36.2%) 1時間半程度 (18.8%:15.8%) 2時間以上(11%:10.7%) 中2 30分未満(17.9%:25.1%) 30分程度	B+	・児童生徒の学力向上の根拠になるのでは。 ・情報モラル…。今問題になっている。実態を把握し子ども、親、教師に危機感が必要。	
		読書タイム実施状況	読書タイム実施校の割合 ②読書タイム実施校 小中 100%	A				
		宍粟市「確かな学力」学習 状況調査経年比較	経年比較結果 経年比較(H22とH24) 小6年 国語 3.2ポイントアップ 算数2.1ポイントアップ 中2年 国語 3.3ポイントアップ 数学 3.7ポイントアップ	B+				
	2 特別支援教育 の充実	人的配置状況	①特別支援員配置 状況(市単) ②学校生活支援教 員配置状況(県単)	①特別支援員配置人数推移 H21 8人 H22 10人 H23 12人 H24 13人 ②学校生活支援教員 2名(小中各1)				B+
		特別支援教育支援体制の 強化	就学の為の連携連 絡会での相談件数	H24 136件 H23 111件 H22 97件				A
	3 国際理解教育 の充実と小学 校からの英語 活動の導入	小学校外国語活動推進状 況	①5,6年外国語活動 授業時数 ②1~4年の英語活 動実施状況	①5,6年 年間35時間の実施状況 小学校 100% ②1~4年の英語活動実施状況 小学校 100%				A
			ALTの活用状況	①月1回以上の活用 小学校 100%				B+
		スクイム市派遣事業改善 状況	検討会の有無	未実施				C
	4 実践的な情報 教育の推進	情報モラル実態調査	実態調査実施の有 無	未実施				C
		情報スキル基準の設定	設置の有無	未設置				C
	5 環境教育の推 進	体験活動を通じた環境教 育の推進状況	推進事業名及び実 施率	①小3 環境体験事業 100% ②小5 自然学校 100% ③小教科(理科、社会)での取組 100% ④小 農園活動等特別活動での取組 100% ⑤クリーン作戦への参加 小中100% ⑥リサイクル活動への参加 小中 100% ⑦千種中「千種学」での取組 落葉樹の植樹 間伐体験				B+

主要 施策	事務事業名(評価 項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想			
7 学校・ 教職員の主体的な研修の促進 (SUPPORT)	1 自発的研修の重視	自主研修取組状況	①自主研修グループの数及び推移 ②研究紀要の作成状況	①グループ数及び推移(h22、23、24)各6グループ ②研究紀要 全グループ研究紀要作成	B+					
		各学校での研修推進状況	校内研修実施状況	①校内研修の実施 H22,H23,H24 小中 100% ②公開授業の実施 H22,H23,H24 小中 100% ③西播磨、播磨西、西人教、市教委指定による研修推進 H24 一宮南中(家庭科) 河東小(家庭科) 波賀小(道徳) 千種中校区(人権) H23 波賀中校区(コミュニティスクール) 山崎西中校区(人権) 全小中学校(読書活動) 千種小(算数) ④校内での紀要の作成 ⑤小中連携人権教育指導計画の作成及び推進 100%	A					
		施策への反映	施策への反映状況	①市教育研究大会での実践発表による、実践の共有化 ②中学校区内での幼小中公開授業による情報の共有化	B-					
	2 「がんばる教職員・学校」への評価・支援システムの構築	表彰制度	①優秀校・教員表彰への推薦	制度未整備	C			B+	B+	・児童生徒の学力向上の根拠になるのでは。 ・校内研修、公開授業・公開保育は幼稚園・保育所でも実施している。 ・教師の声(感想集約)が必要。 ・幼稚園、保育所研修会の連携交流。 ・優秀校、教員表彰制度の設立。
		取組内容の周知	①宍粟市教育研究大会での実践発表 ②広報誌での周知	①宍粟市教育研究大会での実践事例発表による実践の共有及び評価 ・毎年1月 2～3実践を発表 ②広報誌による実践事例の周知および評価 ・研修所紀要「研究紀要」(年1回)発行 ・広報誌「まなびすと」(年2回)発行	B+					
		研修機会の設定及び情報提供	研修機会の提供状況	①幼小中連携による中学校区内校内研修の案内及び研修への参加 全中学校区で実施 ②教科担当者会での授業研究会の案内及び研修会への参加 ③自主研修部会での研修会の案内及び研修会への参加 ④宍粟市初任者研修での先輩教員の授業公開	B+					
		校内研修等への報償費等の確保	予算措置状況	①各小中学校校内研修に係る講師謝金の予算化 総額104万円(1校あたり 40,000円) ②教科・教科外研修に係る講師謝金の予算化 総額40万円(13教科、4教科外) ③種別研修に係る講師謝金の予算化 総額20万円(事務職、養教、幼稚園長、幼稚園職員) ④園所研修 総額9.5万円(幼4万、保3万) ⑤意欲研修 総額21.5万円 ⑥ライフステージ別研修 総額27万円	B-					

主要 施策	事務事業名(評価 項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
8 学校・ 教職員の 活性化 (Appro ach)	1 学校と連携した 指定研究の促 進	学校と連携した指定研究 の促進状況	指定校数及び内容 H24 ・「確かな学力」育成プラン 全中学校区 ・読書活動推進事業 全学校園所 ・へき地教育研究大会 1中学校 ・出会いふれあい赤ちゃん教室 3中学校 H23 ・「確かな学力」育成プラン 全中学校区 ・読書活動推進事業 全小中学校 ・出会いふれあい赤ちゃん教室 2中学校 ・小中連携に関する調査研究 全中学校区	A A A		A	<ul style="list-style-type: none"> ・宍粟の学校はうまく いっているのだろう。 だから、課題が見え にくい。 ・「学校が好き」とい う数値を見ると、子ど もは育っているのだ ろう。 ・他市町の状況がわ からない。宍粟は合 併後まだ新しく、条 件整備途中である。 ・研修に行きたい が、時間や旅費等に 制限がある。 ・官製研修は充実し てきている。
	2 学校組織マネジ メント改善	学校組織マネジメント改善	マネジメント研修の 数 ①校園所長研修 ②教頭研修 ③主幹教諭及び教務研修 各1回 人事評価育成シス テムの活用状況 ①宍粟市教育委員会 活用 ②学校園 100%活用	A A A			
9 宍粟市 教育研 修所の 機能強 化 (Partn ership)	1 大学との協力関 係による市教育 研修所体制の 整備と改善	大学との協力関係による 市教育研修所体制の整備 と改善	兵教大・近大姫路大 学連携研修会等の 実施回数 H23, 24年度 ①兵教大との連携 教職員の能力開発 各9回(マネージメント研修) ②近代姫路大学との連携 教職員の能力開発 各1回(宍粟市初任者研修)	A A A		A	
		関係機関との連携状況と の連携状況	播磨西教育事務所 連携研修会の実施 回数 H23, 24年度 若手教員の力量アップ 各10回 (採用5年未満教員対象)	A			
	2 国・県との”棲み 分け”をした独 自の研修体系 の確立	国・県との”棲み分け”をし た独自の研修体系の確立	宍粟市独自の研修 の状況 ①ライフステージ別研修の実施 9回 ②自主研究グループの数 6グループ ③研究紀要の発行 年1回発行 ④市教育研究大会での実践発表 2~3実践 宍粟市独自の講演 会の状況 ①宍粟市教育研究大会 年1回 ②宍粟市人権教育講演会 年1回 ③宍粟市教育講演会 年1回	A A A			
3 教育に関する情 報提供機能の 強化	情報共有化環境の整備状況	情報共有化環境の整備状況	①個人用PC配置 小中100% ②データ共有フォルダの整備 100%	B+		B+	
	情報共有化状況	学校からの指導案 数	①指導案等情報(データ)数 全小中学校から 各数点提出	B+			

主要 施策	事務事業名(評価 項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
10 チーム 宍粟推 進体制 の確立	1 アクションプラン の策定	アクションプランの数	アクションプランの数 ①「確かな学力」育成プラン(継続3年目)	B-		B+	
		宍粟市「確かな学力」育成 プランに取組状況	確かな学力育成プラン に取組内容 ①宍粟市でのアクションプラン作成及び市広報での情報発信と協 力依頼(継続3年目) ②各中学校で毎年作成(継続3年目) ③各中学校区ごとに学力状況調査結果の発信と工夫改善策への 協力依頼(継続3年目)	B+			
		チーム総がかりの学校教 育推進状況	チーム宍粟への登 録率 ①読書ボランティア設立状況(全小中 100%) ②見守り隊設立(小 100% 中 0%) ③110番の家加入(小 100% 中 0%)	B+			
	2 社会教育施策 との連携(学校 支援地域本部 事業等)	ボランティアの活用状況	ボランティア活用率 ①読書活動推進コーディネーターの配置及び活用状況(小中 1 00% 保幼でもH24年より随時活用中) ②読書ボランティア活動状況(小中 100%) ③見守り隊活動状況(小 100% 中0%)	B+			
		企業等教育力の活用状 況	企業等出前授業活 用数及びその推移 ①宍粟総合病院「命の授業」実施校数 H24 小15校 中3校 H23 小9校 中3校 H22 小12校 中2校 ②西兵庫信用金庫「金融教育」実施校数 H24 小1校 中3校 H23 小3校 中3校 H22 小8校 中2校 ③森林環境教育(丸井利春氏)実施校数 h23・22 小各1校	B+			
		地域教育コーディネーター の配置状況	コーディネーター配 置の有無 未配置	C			
	3 学校評価の実 施と学校評議 員の役割・運営 形態の見直し	学校評価実施状況	学校評価実施校の ①宍粟市での学校園評価の実施 100% (目標管理シートによる全幼小中の評価実施) ②全幼小中での学校園評価の実施 100%	A			
		PDCAサイクルによる改善 実施状況	PDCAサイクルによ る改善実施校の割 合 ①全幼小中で実施 100% (目標管理シートによる) ②全幼小中で実施 100% (学校園評価報告書 アンケートにより)	A			
		③学校評議員等の研修 実施状況	③学校評議員等の 研修の有無 未実施	C			

主要施策	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	自己評価	取組の成果等	委員総合評価	委員の意見・感想	
11 家庭・地域と連携した教育活動の充実	1 計画的なオープンスクールの実施	オープンスクール実施状況	オープンスクール実施率 ①オープンスクール実施状況 学校園 100% ②アンケート実施による改善努力 学校園 100%	A		B+	B+	
		広報を活用した情報提供状況	広報を活用した情報提供の方法 ①県のホームページでの情報提供 実施 ②市広報での情報提供 未実施 ③各学校園の情報提供 小中学校園 100%	B-				
	2 家庭・地域と連携した新たなプログラムの研究	家庭・地域と連携したプログラム実施状況	家庭・地域と連携したプログラム名及び実施率 ①読書ボランティアを活用した読書活動 小中 100% ②地域人材を活用した授業の実施 小中100% ・小しめ縄づくり、米作り、環境教育、自然学校等 ・トライやる・ウィーク及び「トライやる」アクションの実施	A	A			
12 学校現場の裁量拡充と支援体制の構築	1 教育行政に関する定期的な意識調査の実施	教育行政に関する定期的な意識調査の実施状況	教育行政に関する定期的な意識調査の実施の有無 未実施	C	C			
	2 ICTを活用したコミュニケーション手段の確立	ICTを活用できる環境整備状況	ICTを活用できる環境整備の内容及び達成率 ①市教委～学校間のメールシステム整備 100% ②個人用PC配置 100%(除く 非常勤職員) ③リスメール(教職員間メールシステム)の整備 100%	B+	B+			
		市教育研修所教育情報提供システムの整備状況	市教育研修所教育情報提供システムの整備の達成率 ①市研修所 共有フォルダ設置 100%	B+				
			インターネット、SNS等を活用した電子会議室の整備状況	インターネット、SNS等を活用した電子会議室整備の有無 未実施	C			
	3 教師の事務負担軽減に向けた取組の推進	教師の事務負担軽減に向けた取組の推進	教師の事務負担軽減に向けた取組の内容及び達成率 ①各校へ個人用PC配置 100% ②市研修所共有フォルダ設置 100% ③リスメールの整備 100% ④事務負担状況調査 勤務時間適正化対策プランの推進状況調査の実施 ⑤業務改善推進委員会の実施 年2回実施	B+	B+	B-		
4 学校提案型の予算編成と執行における校長の権限拡充	学校提案型の予算編成と執行における校長の権限拡充	①学校提案型予算編成システム	①次年度予算編成時の各学校へのヒアリングの実施 ②教育研修所予算内で編成(例:特活、食育推進の為の研修費要望)	B-	B-			
		②校長の予算執行権限拡充内容	②校長の予算執行可能額の増額 例:費目により 3万円→30万円へ明確化	B-				
5 事務局体制の強化	事務局体制の強化	①人的配置状況 ②組織再編状況	①部局内人数 子ども未来課 6名増 指導主事枠 1名増(H22より) 読書活動推進コーディネーター 配置 派遣社会教育主事1名減(H22より)	B-	B-			
			①部局内組織再編 ・子ども未来課の教育委員会所属	A				

・家庭との連携プログラムとして学力状況調査や家庭学習の手引きを配布している。もっと連携すべきことがあるのでは。

・保護者に対する教育(行政を含む)に関する意識調査の定期的実施。
・教育行政に関する意識調査が必要。
・子ども未来課所属だけでAとなるのは疑問。

主要施策	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	自己評価	取組の成果等	委員総合評価	委員の意見・感想	
13 健康教育の充実	1 宍粟市学校園食育推進委員会の設置	食育推進委員会の設置状況	食育推進委員会の設置率 ①宍粟市学校園食育推進委員会 設置済み ②校内食育推進委員会 小中学校 100%	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満、薬物乱用の防止に向けた施策の実施。 ・健康教育として歯磨き、薬物、病気等、多くの内容を指導しているの、項目を増やす必要がある。 ・朝食は食べていても、内容は菓子パンとジュースとか牛乳だけのようない子どももあり、親への啓発が必要。 ・早寝・早起き・朝ごはんの啓発活動に関して、幼稚園では講演会を実施したり家庭への情報発信(おたより)をしている。 ・早寝・早起き・朝ごはんの啓発状況は、各学校の取り組みを入れる必要あり。 ・早寝・早起き・朝ごはんについて宍粟全体でどんな取り組みをしたのか。 ・毎月19日の給食(「食育の日」)を質素なものにするという食育のあり方でいいのか。 ・食育以外にもあるだろう。 ・調査結果で、早寝早起きだったわけで、啓発活動の実施内容がわからない。 	
		食育年間指導計画の作成状況	食育年間指導計画の作成率 ①中学校区保幼小中連携食育年間指導計画の作成 100%	A				
	2 ”早寝・早起き・朝ごはん”啓発活動の実施	”早寝・早起き・朝ごはん”啓発活動の実施状況(宍粟市確かな学力調査より)	夜10時ごろまでに寝ている割合	H24年度版(宍粟市:全国) 小4年生 88.3%:78.1% 小6年生 77.3%:52.4% 中2年生 28.0%:17.1% (中2 11時頃までに寝る 80.3%:60.2%)				A
			起床時間朝6時30分までに起きている割合	H24年度版(宍粟市:全国) 小4年生 82.4%:63.9% 小6年生 77.3%:56.5% 中2年生 97.3%:56.6% (中2 6時までに起きる 48.8%:9.4%)				A
			朝食をきちんと食べている割合	H24年度版(宍粟市:全国) 小4年生 94.0%:93.9% 小6年生 94.3%:94.2% 中2年生 94.4%:92.1%				A
	14 体育・スポーツ活動及び文化活動の充実	1 市全体による部活動の充実に向けた環境整備の重点化	部活動の補助金額	部活動の補助金額 ①部活動道具補助金 250万円 ②大会派遣に係る補助金 850万円 一人あたり約8,500円				B+
2 少子化に対応するための部活動のあり方に関する検討				部活動環境改善検討会実施の有無	未実施	C	C	
3 学校図書館教育計画の作成		学校図書館教育全体計画の作成状況	市読書活動推進計画の有無	現在策定中	B-	B-	B-	
	各学校での図書館教育計画作成状況		H24 作成状況 小中 19.2%	B-				

主要 施策	事務事業名(評価 項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
15 教育活動全体を通じた道徳・人権教育の確立	1 命の重さを伝える教育の推進	道徳教育推進状況 「道徳教育推進状況調査」より	①指導計画作成率 ②授業実施率 指導計画及び授業時間の確保状況 ①全体計画の作成状況 100% ②年間指導計画の作成状況 100% ③授業時間の確保(35h) 100%	A	確かな学力状況調査より 「困っている人の手助けをしている」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 77%:67.9% 小6 66.3%:63.7% 中2 72.8%:54.5% H22(宍粟市:全国) 小4 72.7%:64.6% 小6 76.3%:55.9% 中2 71%:52.9%	B+	・自己肯定感(自分のことが好き)を育む体験活動を一つの目玉施策にする。 ・自己肯定感を育む体験活動に自然学校やふるさと宍粟探検隊も入れていいのでは。 ・係活動、委員会活動等を通して自己有用感を育てている。 ・「出会い、ふれあい高齢者」も必要。 ・宍粟市消防署による「命」の授業はできないか。 ・15-1:具体的にどのような研修内容か。
		生徒への浸透度 生徒の状況度合い「概ね満足できる」割合 ①主として自分自身に関すること 小 94.4% 中 100% ②主として他の人との関わりに関すること 小 92.6% 中 100% ③主として自然や崇高なものとの関わりに関すること 小 87.0% 中 100% ④主として集団や社会との関わりに関すること 小 87.0% 中100%	B+				
	道徳教育の校内研修実施状況 ①道徳教育の校内研修を複数回実施している学校の割合 小 88.9% 中 100%	A					
	2 各教科等と連携した道徳教育の推進	道徳教育推進状況 「道徳教育推進状況調査」より	①全体計画作成率 ②指導体制構築率 全体計画作成状況 ①全体計画の作成状況 100% ②道徳の時間及び各教科等における道徳教育の充実に向けた指導体制の構築状況 100%	B+	B+		

主要 施策	事務事業名(評価 項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想	
15 教育活動全体を通じた道徳・人権教育の確立	3 ”自己肯定感・自己有用感”を育む体験活動の充実	自己肯定感をもつ児童生徒の状況 「宍粟市確かな学力調査」より	自分のことが好きな児童生徒の割合 H24年度版(宍粟市:全国) ①自分のことが好きである(まあまああてはまる) 小4年生 59.2%:67.2% 小6年生 54.5%:56.1% 中2年生 41.9%:40%	B-	確かな学力状況調査より 「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 67.7%:68.7% 小6 65.1%:63.7% 中2 62.7%:50.5% H22(宍粟市:全国) 小4 70.6%:68.4% 小6 65.8%:59.4% 中2 60.6%:48.9% 「自分のことが好きである」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 59.2%:67.2% 小6 54.5%:56.1% 中2 41.9%:40% H22(宍粟市:全国) 小4 63.7%:66.9% 小6 51.7%:51.3% 中2 42.7%:38% 「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 89%:86.5% 小6 81.5%:83.4% 中2 79.8%:71.2% H22(宍粟市:全国) 小4 85.4%:85.2% 小6 83.5%:82.1% 中2 76.5%:70.1% 「家の手伝いをしている」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 80.3%:79.2% 小6 72%:76.5% 中2 62.3%:65.3% H22(宍粟市:全国) 小4 76.5%:77.9% 小6 74.5%:73.3% 中2 63.9%:65%	B+	・15-4:福祉教育、福祉体験も記載してはどうか。 ・道徳、人権教育はどこまでやれば良いのかというゴールがないので活動指標を見る限りAだと思う。 ・人権教育については、市の社会教育とタイアップして、人権文化としての情報を伝え広めていくことが求められてる。 ・子どもたちが地域の方に花の苗をプレゼントしたり、本の読み聞かせに回るのはいかがでしょうか。	
		既存事業での体験活動の見直し	工夫改善した事業 ①新規「トライやる」アクションの実施 中学校100%	B+				
		自己肯定感を育む体験活動名及び実施率	①リサイクル活動への参加 小中100% ②クリーン作戦への参加 小中100% ③トライやる・ウィークへの参加 中100% ④出会いふれあい赤ちゃん教室の実施 中3校	B+				
	4 外部講師等による指導の充実	外部講師活用状況	①市教委の確保率 ②各校の確保状況	①宍粟市教育委員会としての確保 未実施 ②各学校での確保状況 ・読書ボランティア 小中100% ・見守り隊 小 100%	B+	「自分は友だちから認められていると思う」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 59.1%:59.5% 小6 63.9%:61.5% 中2 68.6%:56.5% H22(宍粟市:全国) 小4 58.8%:58.7% 小6 63.6%:55.9% 中2 64.3%:55.3%		B+
			外部講師活用状況	小学校 100% ・環境体験事業 ・自然学校 ・ふるさと宍粟探検隊 ・各学校での教育活動における講師招聘 中学校 ・「千種学」での講師招聘(千種中)	B+			
	5 人権教育の推進	人権教育推進状況	全体計画等作成率	①全体計画作成状況 小中100% ②年間指導計画作成状況 小中100% ③小小・小中連携指導計画作成 小中100%	A	「自分は友だちから認められていると思う」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 59.1%:59.5% 小6 63.9%:61.5% 中2 68.6%:56.5% H22(宍粟市:全国) 小4 58.8%:58.7% 小6 63.6%:55.9% 中2 64.3%:55.3%		B+
			研修及び会議等の実施率	①保幼小中連携人権研修実施状況(各町人教、同教活動) 全中学校で実施 ②市人権教育推進検討委員会での検討・改善年2回実施 ③校内人権研修の実施 小中 100% ④宍粟市人権教育講演会 年1回	B+			

主要 施策	事務事業名(評価 項目)	評価内容	活動指標		自己 評価		取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
16 生徒指 導支援 体制の 確立	1 不登校対策事 業(適応教室) の充実	人的体制	配置人数	2名配置	B+	B+	長期欠席児童生徒数の推移 H23 1%(38名/3744名中) H22 1.1% (43名/3853名) 不登校児童生徒数の推移 H23 0.5%(17名/3744名) H22 0.4% (16名/3853名) 問題行動数 H23 0件 H22 2件	B-	・子育て支援については、とても大事 であるので、この部分を入れてほし い。 ・子育て不安の保護者への子育て支 援が必要。 ・保育所では親への教育、支援をか なりやっている。 ・PTAとの連携は学校からPTAとい う一方通行の気がする。 ・PTAとの連携は学校側からの一 方通行になり易く、子どもの家庭で の変化などを担任等に伝える方法が少 ない。 ・親からすると、小学校は行き易く、 中学校は行きにくい。(評価があるか らか) ・生徒指導のデータベース化はそれ ぞれ状況が異なることやプライバ シーの観点から不要ではないか。 ・16-5: 人的体制でスクールカウンセラーを もっと増やし、心をしっかり受け止め ることのできる状況が求められてい る。 ・いじめの問題への取り組みはどうか。
		連携状況	連携機関及び連携 体制	連携機関 ①青少年育成センター ②スクールカウンセラー スクールカウンセラーを囲む会 月1回	B-				
	2 生徒指導事案 のデータベー ス化と相談・支 援体制の充実	データベース化に向けた 推進状況	データベース化の環 境整備率	①個人用PC配置 小中100% ②教育研修所内に共有フォルダの作成 100% ③生徒指導事案のデータベース化 未実施	C	B-			
		教育委員会での相談・支 援体制の充実	相談・支援体制の状 況	①青少年育成センター設置及び人的配置2人 ②相談件数 H23 電話相談 33件 面接相談 5件 H24 電話相談 12件 面接相談 0件(8月末)	B-				
	3 地域・家庭と連 携した生徒指導 体制の検討	PTA及び関係機関との連 携状況	PTAとの連携内容及 び実施率	①PTAとの連携による生徒指導 100% ・PTA会議での情報提供及び協力依頼 ・学校、学年、学級通信による情報提供及び協力依頼 ・関係する個々の保護者への協力依頼	A	B+			
			関係機関との連携 の割合	①民生委員との連携 100% ②市の福祉部との連携 100% ③青少年育成委員会との連携 100%	B+				
	4 「中央情報モラ ル指導カリキュ ラム」の策定	ICTを活用に関する実態 調査	調査の有無	未実施	C	C			
		市独自の情報モラル指導 カリキュラムの策定	策定状況	未実施	C				
	5 スクールカウ ンセラーの配置強 化	スクールカウンセラーの配 置	①配置人数 ②相談件数	①配置状況(9人 各中学校1 山崎小1) ②年間相談件数(年間35日 H23年度総相談件数 2396件)	A	B+			
		配置強化に向けた検討	検討の有無	未実施	C				

主要施策	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	自己評価	取組の成果等	委員総合評価	委員の意見・感想		
17 危機管理体制・マニュアルの整備	1 学校危機管理体制の構築	学校危機管理体制の構築状況	推進母体「宍粟市学校危機管理推進本部」の設置状況	未設置	C	校舎の耐震化状況 92.8%	C ・子どもを預ける親の立場として、早急にマニュアルを作成してほしい。 ・マニュアルは一体となり連動できるものであるべきで、消防署との話し合いが必要。		
			連絡会議開催状況	未開催	C				
			学校危機管理に関する専門員等人的配置状況	未配置	C				
	2 ”宍粟市 学校危機管理マニュアル(仮)”の整備	”宍粟市 学校危機管理マニュアル(仮)”の整備	市独自の学校危機管理マニュアル整備状況	①宍粟市地域防災計画(9月5日完成予定) ②宍粟市避難所運営マニュアル(作成中) ③市教委版 ひな形作成済み	B-			C	
			マニュアルに従った訓練の実施状況	未実施	C				
	3 各学校の危機管理マニュアル等の再点検	各学校の危機管理マニュアル等の再点検	各学校のマニュアルの再点検状況	毎年点検作成 100%	B+			C	
			学校、市、教育委員会の一体となった危機管理体制構築の為の事務調整の状況	未実施	C				
	18 地域の特性を踏まえた防災・防犯教育の推進	1 地域防災訓練の実施、推進体制の強化	防災教育実施状況	防災教育実施状況	地震を想定した避難訓練 年1回以上実施 小中100%			A	B+ B+ ・防災についてはOK。防犯に関しては記述がない。(やっていないのか?) ・防災教育は、保育所も月1回県の指導により実施している。 ・防災教育は幼保においても実施している。 ・危機管理(通学)のための通学バスの整備。 ・過度な見守り隊に疑問を感じる。 ・下校はもっと自由でもよいのではないか。昔は遊びながら帰っていた。
				市内全校での地域と連携した防災訓練実施状況	未実施			C	
2 通学路安全マップの作成		通学安全マップの作成	作成状況	小中100%作成	A				
			校区住民への情報共有	共有状況	B-				
			危険箇所の再点検	危険箇所の再点検状況	小中100%実施	A			

主要 施策	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	自己 評価	取組の成果等	委員 総合 評価	委員の意見・感想
19 ”地域 で守 る”学 校安全 体制の 確立	1 学校安全ボラン ティア、見守り 隊の推進	見守り隊の組織状況	見守り隊の組織状況 ①組織状況 小学校 100% ②点検状況 小毎年実施 100%	A		B-	・しーたん放送活用状況は 幼稚園も100%です。 ・命に関することはハード ルを上げるべき。
		横の連絡体制づくり	連絡体制づくり推進 状況 連絡会 未実施	C			
		スクールガードリーダー活用状況	スクールガードリー ダー活用状況 未配置	C			
	2 開かれた学校 づくりの推進 (基本目標4で	基本目標4で点検					
	3 メール連絡シス テム、音声お知 らせシステムの 利用促進	メール連絡システム導入 状況	メール連絡システム 導入状況 ①メール連絡システム導入状況 全小中 100%	A			
しーたん放送活用状況		しーたん放送活用状 況 ①活用状況 小中 100%	A				